事業事前評価を実施し、借款契約締結後にすみやかに「事業事前評価表」として公表しています。

事業事前評価の意義・概要

当行では、2001年度以降に審査が行われたすべての円借款事業を対象として事業事前評価を実施し、借款契約締結後、すみやかに「事業事前評価表」を公表しています。事前評価は、審査による事業の必要性や、効果、実施計画等の確認に加えて、成果目標をより定量的な指標を用いて設定するとともに、今後の評価計画を明確にするものです。また、「事業事前評価表」として取りまとめたうえで公表することにより、説明責任を果たし、透明性の向上をめざしています。事前評価は、事後評価とともに、事業の質の向上に向けて大きな役割を果たしています。

事業事前評価表を公表した事業（2003年度）

国名	事業名
中国	公衆衛生基礎施設整備事業 江西省植林事業 湖北省植林事業 フフホト市水環境整備事業 内陸部・人材育成事業 放送事業
インドネシア	ムアラカラン火力発電所ガス化事業 ムアラタワル・ガス火力発電所拡張事業 タンジュンプリオク火力発電所拡張事業 スマラン火力発電所リハビリ・ガス化事業 ラヘンドン地熱発電所拡張事業 ジャワ南線鉄道複線化事業（2） ジャカルタ漁港リハビリ事業 沿岸無線整備事業（4） タンジュンプリオク港緊急リハビリ事業 スラバヤ空港建設事業（2）
フィリピン	ムスリム・ミンダナオ自治地域平和・開発社会基金事業 中部ミンダナオ道路整備事業 幹線道路バイパス建設事業（1）（プラリデルおよびカバナツアン）
ベトナム	環境管理体制構築支援借款 オモン火力発電所2号機建設事業 ダイニン水力発電所建設事業（3） ドンナイ／バリア・ブンタウ省上水道整備事業（2） 紅河橋建設事業（3） タクモ水力発電所増設事業 国道・省道橋梁改修事業 南北鉄道橋梁安全性向上事業
インド	デリー高速輸送システム建設事業（5） プルリア揚水発電所建設事業（2） ダウリガンガ水力発電所建設事業（3） レンガリ灌漑事業（2） クルヌール・クダッパ水路近代化事業（2） ウミアム第2水力発電所改修事業 ジャイプール上水道整備事業 ハリヤナ州森林資源管理・貧困削減事業
カザフスタン	アスタナ上下水道整備事業
マケドニア	ズレトヴィッツア水利用改善事業
エジプト	カイローアレキサンドリア送電網事業 ザファラーナ風力発電事業
モロッコ	地方部中学校拡充事業
チュニジア	北部地域導水事業
ケニア	ソンドゥ・ミリウ水力発電事業（2）

ジャカルタ市民の“台所”
活気あるジャカルタ漁港

ベトナム南北鉄道の橋梁、
一部で老朽化が進んでいる

市民の重要な足である
デリー高速輸送システム

チュニジアで水汲みをする少女たち

事業事前評価表の一例
―エジプト「ザファラーナ風力発電事業」

中東地域人口の約20%を占めるエジプトにおいては、国内の年間電力消費量が1997年から20年間で約3倍になることが見込まれており、急激な需要増加に伴う深刻な電力供給不足が懸念されています。当行が2003年度に借款契約を締結した「ザファラーナ風力発電事業」は、首都カイロの南東約220kmに位置するザファラーナ地区に120MWの風力発電所を新設することにより、電力供給量の増加に加え、化石燃料使用を抑制して大気汚染を緩和するとともに、温室効果ガス排出を削減し、地球温暖化の抑制に寄与することを目的とするものです。

評価の指標としては、発電所が適正に運用されているかを評価する「設備利用率」や「計画外停止時間」、発電所が一定時間使われているかを確認するための「稼働率」、発電所の性能が維持・発揮されているかを評価する「最大出力」等、全部で7つの指標が設定されています。このうち、事業の目的の一つである環境改善の側面に寄与したかどうかを評価する「CO_2排出削減量」については、エジプトの標準的な火力発電所で、本事業の年間発電電力量と同量の発電を行った場合の年間CO_2排出量を基に算出することとしています。

また、過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓としては、発電所自体は工期通りに完成したものの、送電線および変電所の一部建設が遅れたために効果発現が遅延した事例が挙げられています。そのため、本事業においては二つの実施機関の責任分担を明確化し、両機関の間で十分な情報交換・進捗報告を行うこと（モニタリング）等により、効果が当初の計画通りに発現するよう留意しています。

事業事前評価表　項目一覧

項目
1. 対象事業名
2. 本行が支援することの必要性・妥当性
3. 事業の目的等
4. 事業の内容
5. 成果の目標
6. 外部要因リスク
7. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓
8. 今後の評価計画

事前評価で設定された評価指標およびIRR（内部収益率）

評価指標	目標値（完成後2年目）
設備利用率	40%
稼働率	97%
最大出力	120MW
送電端電力量	415GWh／年
CO_2排出削減量	27万トン／年
計画外停止時間（機器故障・暴風他による）	0時間／年
計画点検・補修による停止時間（各ユニット）	13時間／年
EIRR（経済的内部収益率）	16.90%
FIRR（財務的内部収益率）	1.22%